

平成 30 年度第 2 回志賀町地域公共交通活性化協議会  
議事録

1. 日 時：平成 30 年 12 月 3 日（月） 14：00～15：15

2. 会 場：志賀町役場 1 階 大会議室

3. 出席者名簿

区 分	氏 名	現 在 職 名	備 考
1 号委員	庄 田 義 則	志賀町副町長	副会長
2 号委員	稲岡 健太郎	志賀町議会 副議長	
	櫻井 俊一	志賀町議会 総務産業建設常任委員長	
3 号委員	寺井 康人	志賀町区長会 会長	
	松村 和子	志賀町民生児童委員	
	南 進	志賀町老人クラブ連合会 会長	欠席
	干場 昌明	志賀町老人クラブ連合会 副会長	
	寺口 優美子	志賀町女性団体協議会 会長	
4 号委員	松田 隆一	北鉄能登バス(株) 取締役支配人	
5 号委員	酒谷 正人	(株)高浜タクシー 代表取締役	
	戸坂 忠寸計	(有)能登金剛交通 代表取締役	代理
6 号委員	佐久間 敏之	北陸信越運輸局 石川運輸支局 首席運輸企画専門官	
7 号委員	今村 友紀枝	石川県企画振興部新幹線・交通対策監室 交通政策課 主幹	
8 号委員	窪田 大輔	石川県羽咋警察署 交通課長	
9 号委員	細川 彰仁	石川県中能登土木総合事務所 羽咋土木事務所 維持管理課長	
	関田 勝行	志賀町 まち整備課長	
10 号委員	高山 純一	学識経験者（金沢大学教授）	会長
	中川 大	学識経験者（富山大学副学長）	欠席
	池田 隆盛	志賀中学校長	
	中田 明	志賀町商工会 事務局長	
	大正路 哲郎	富来商工会 事務局長	
	山口 勝好	志賀町 健康福祉課長	
	浜村 大	志賀町 商工観光課長 （志賀町観光協会事務局長兼務）	代理
	山本 政人	志賀町 学校教育課長	

事務局	山下 光雄	志賀町 企画財政課ふるさと創生室長	事務局長
	上 滝 達哉	志賀町 企画財政課参事	事務局員
	瀧 川 哲也	志賀町 企画財政課ふるさと創生室 次長	事務局員
	山 口 宗浩	志賀町 企画財政課ふるさと創生室 主査	事務局員

#### 4. 協議会次第

##### 1 開会

##### 2 挨拶

##### 3 議事

###### (1) 検討内容とスケジュール

(資料 I. 検討内容とスケジュール)

###### (2) 予約制のりあい交通運行実験の実施概要

(資料 II. 予約制のりあい交通運行実験の実施概要)

###### (3) 地域公共交通が目指す目標と目標を達成するための施策

(資料 III. 地域公共交通が目指す目標と目標を達成するための施策)

###### (4) コミュニティバス各路線の改編案

(資料 IV. コミュニティバス各路線の改編案)

##### 4 その他

###### (1) まちなか循環線の国庫補助制度の活用について

(資料 V. まちなか循環線の国庫補助制度の活用について)

###### (2) 平成30年度第3回志賀町地域公共交通活性化協議会について

##### 5 閉会

## 5. 議事内容

### 1. 開会

### 2. 挨拶

(高山会長)

皆様こんにちは。会長を仰せつかっている金沢大学の高山です。

本日は天気もよく、このような天気が続けばと個人的には思っているが、天気予報では今週末から雪となっており、今年はじめのような大雪にはならないことを願っている。

降雪が与える交通への影響は大きく、車を所有する人でも移動に不便を感じるほどである。車を所有せず、普段はバスや自転車を利用している人は、さらに大きな不便を感じるものと思われる。今年1月から2月初頭にかけての大雪では、現在私が携わっている能美市においてもコミュニティバスがしばらく運休していたと聞いた。志賀町においてもコミュニティバスの運行に大変な苦労があったものと思われる。

今回の協議会の主題は大雪のような非常時の話ではない。普段の公共交通の利用に関して運行ダイヤの非効率性、不便さについて地元から様々な要望があり、それらの要望を受けて昨年度から新たな運行計画について詳細に検討を行ってきた。その運行計画については地元で丁寧に説明を行い、予約制のりあい交通運行実験を実施し、いくつかの成果も出てきている。

本日の協議会では予約制のりあい交通運行実験の経過報告の他、地域公共交通網形成計画の計画案をまとめるという役割もあり、非常に重要な会であると位置付けている。事前に本日の資料も配布されているので、委員の皆様のそれぞれの地域、立場で気づいた点があれば、発言して頂きたいと考えている。よろしくようお願い申し上げます。

### 3. 議事

#### (1) 本日の検討内容とスケジュール

<事務局より説明>

(資料 I. 本日の検討内容とスケジュール)

(高山会長)

今の説明に関して、質問や意見等があればお願いしたい。特にないようであるので、議事を進める。

#### (2) 予約制のりあい交通運行実験の実施概要

<事務局より説明>

(資料 II. 予約制のりあい交通運行実験の実施概要)

(高山会長)

今の説明に関して、質問や意見等があればお願いしたい。特にないようであるので、私から1点質問したい。

利用者負担が1回500円とのこと。運行距離によって違いはあると思うが、平均的には

1 回当たりの利用でどの程度の運行経費がかかっているのか。

(事務局)

運行距離にもよるが、運行距離が長い場合で 1 回当たり 2,000 円から 3,000 円程であると思われる。利用者から 500 円を受領し、実際のタクシー料金との差額を町が負担する。

(高山会長)

例えば町の負担額が 2,000 円であれば、利用者から 500 円受領するので 25%の収支率、町の負担が 3,000 円であれば 15%から 16%の収支率ということになる。なぜ今このような話をしたかということ、他のコミュニティバスの収支率がどの程度なのかということ念頭において考えることが大切であると思われるためである。

### (3) 地域公共交通が目指す目標と目標を達成するための施策

<事務局より説明>

(資料 Ⅲ. 地域公共交通が目指す目標と目標を達成するための施策)

(松村委員)

資料の 16 ページに記載されているシルバー定期券の销售价格について確認したい。1 ヶ月の定期券の価格が 7,200 円であるのに対し、2 ヶ月の定期券の価格が 14,400 円と単純に 2 倍になっている。3 ヶ月の定期券になるといくらか割引がなされているようにも見受けられるが、2 ヶ月の定期券の価格は間違いないのか。

(松田委員)

間違いない。3 ヶ月の定期券から割引がなされるようになっている。

(事務局)

1 点補足する。資料 16 ページ左側に記載されているシルバー定期券は、既に販売されている。今後は、このシルバー定期券を保有していれば、コミュニティバスも乗車が可能になるよう検討を行っていく。

### (4) コミュニティバス各路線の改編案

<事務局より説明>

(資料 Ⅳ. コミュニティバス各路線の改編案)

(寺井委員)

改編案では今でも志賀地域と富来地域と分かれているが、志加浦線が福浦まで延伸されたのは素晴らしいことであるので、実験的に志加浦線のうち 1 本くらい富来病院まで延伸してはどうか。

(事務局)

これまでも何度となく意見が出されたが、志賀地域と富来地域を結ぶ路線として路線バスの富来急行と富来線がある。富来急行と富来線をいかに利用してもらうかということが路線維持にもつながり、町の負担の軽減にもつながる。仮に志加浦線を富来病院まで延伸した場合、富来急行と富来線の利用者がさらに減少し、富来急行と富来線自体が廃線となる可能性がある。あくまで地域間の連携には富来線を利用してもらいたいと考えている。

但し、富来急行と富来線を利用して富来バスターミナルから高浜バスターミナルまで利用した場合、料金が片道 740 円かかり、利用しづらい料金設定となっている。そのため、町が運賃の半額を補助し、利用者を増加させるための実験を行いたいと考えている。

(寺井委員)

趣旨は理解できる。ただ、町民のため、志賀町の活性化のためにどのような施策が一番よいのか、という観点から施策の検討をお願いしたい。

(酒谷委員)

資料 31 ページのまちなか循環線について、最も長い休憩時間でも 30 分となっている。まとまった休憩時間がなく、運行上問題があると思われる。

(事務局)

まちなか循環線の運行における運転手の休憩時間については、法令で定められた基準を満たしている。

(酒谷委員)

問題はまとまった休憩時間がないということである。現在は運転手が不足しており、まちなか循環線も一人の運転手が運行することになると思われる。改編案では 2 周目と 3 周目の間にある 30 分の休憩が最長となっているが、少なくとも 1 回は 1 時間の休憩が必要であると思われる。

(事務局)

例えば比較的余裕のある土田線や上熊野線とまちなか循環線を組み合わせることにより、運転手が交代できるような体制を取れるよう調整を行っている。

(酒谷委員)

それは、まちなか循環線以外の路線を運行している運転手が、ある時間はまちなか循環線を運行し、まちなか循環線の運行が終わるとまた元の路線を運行するというものか。

(事務局)

まちなか循環線を交代で運行することによって、休憩時間を確保したいと考えている。

(酒谷委員)

そのような運行は大変難しいと思われる。

(事務局)

委員の指摘事項は検討課題とする。

(松村委員)

志加浦線が福浦まで延伸されるとのことで、旧両町の橋渡しとして素晴らしいことだと思う。ただ、福浦まで延伸されるのであれば、テレビ番組で石川の宝と紹介されていた巖門まで延伸してもらいたいと思う。巖門まで延伸されれば、富来地域の住民も富来に来てくれたと感じられるのではないかと。福浦の住民は県外に出るときにも高浜に集合するなど、意識が高浜に向いているように思われるが、巖門まで延伸されることによって、富来地域にも意識が向くと思われる。先ほど富来病院まで延伸してもらいたいという意見があったが、巖門も石川の景勝地であるので、巖門を志賀町全体で守っていくためにも、志加浦線を巖門まで延伸してもらいたいと思う。

(事務局)

現行の福浦線が巖門まで運行しているが、巖門のバス停の年間利用者数は降車が6名、乗車が3名と大変少ない。観光で巖門を訪れる場合、定期観光バス利用、マイカー利用、そして金沢でレンタカーを借りて志賀町内に宿泊して周遊する人が多い。実際にバスで観光地を巡ると、自分が観光した後にすぐバスが来れば問題ないが、志賀町では過密なダイヤではないため、自由に帰ることができないのが現状である。金沢市内のバスであれば、例えば近江町市場に行った後、またすぐに次のバスが来るので、次の目的地への移動に支障はない。しかし志賀町では金沢ほどダイヤが過密ではないので、観光客向けに定時定路線バスを対応させるとなると、さらに本数を増やす必要があり、対応は難しいと思われる。

(酒谷委員)

改編案において、バス車両としてコンピューターを用いる路線が多い。当該路線の平均利用者数を見ればコンピューターの定員13人を下回っているが、稀に定員以上の利用がある日がある。現状、定員以上の利用があった場合は無償で車両を抛出しているが、改編後はどのように対応するのか。

(事務局)

改編後は町が車両を保有することになる。もし定員以上の利用があった場合には、運行受注業者の既存の車両を用いて対処してもらおう予定である。その場合、対応回数や運行距離に応じて精算する予定である。

(酒谷委員)

今説明のあった対応を行う場合、事業者は常に予備車両を準備しておく必要がある。事務局の説明の中にあつた既存の車両とは、どのようなものを想定しているのか。

(事務局)

定員を何十人も超える利用があるとは考えにくいので、例えばタクシー事業者であればタクシー車両で対応できるものと考えている。

(酒谷委員)

タクシー車両が空いていれば対応できるが、空いていなければ車両が空くまで利用者に待ってもらうことになるが、それでもよいか。

(事務局)

それでよい。もし車両がどうしても空かない場合には、町で対応が可能であれば、町が対応することも考えている。

(高山会長)

熊野線について確認したい。富来病院の年間利用者数を見ると、乗車数が降車数に比べて80人ほど少ない。これは富来病院で降車した利用者が、富来病院以外のバス停を利用して帰宅していると考えられる。このような利用者の動きについて事務局はどのように考えているのか。

(事務局)

富来地域ではコミュニティバスの他にAコープが無料で運行しているバスがある。富来地域の利用者はコミュニティバスでまちなかに来て、帰りにAコープのバスを利用する住民もいると聞いている。乗降客数の乖離の要因がこれだけで説明できるかという点までは分析していないが、住民の移動手段の選択肢の一つとしてAコープバスがあるということは、乖離の要因の一つであると思われる。

(寺口委員)

私は下甘田在住だが、近年は下甘田地区でも店舗の閉店が相次いでおり、今回の再編でどんたくやロッキーにバスで行けるようになることは大変ありがたい。また、文化ホールにも行けるようになり、下甘田の住民として非常にありがたい。

#### 4. その他

##### (1) まちなか循環線の国庫補助制度の活用について

<事務局より説明>

(資料 V. まちなか循環線の国庫補助制度の活用について)

(高山会長)

今の説明に関して、質問や意見等があればお願いしたい。特になければ平成30年度第3回志賀町地域公共交通活性化協議会について事務局より説明をお願いします。

(2) 平成30年度第3回志賀町地域公共交通活性化協議会について

<事務局より説明>

(高山会長)

今の説明に関して、質問や意見等があればお願いしたい。特にないようなので、以上で本日本日予定していた協議はすべて終了とする。

5. 閉会

(事務局)

長時間の審議、ありがとうございました。今後は第3回志賀町地域公共交通活性化協議会に向けて、本日出された意見を整理していく。以上で本日の協議会を終了させていただきます。

以上